

グローバルに視た鳥取砂丘の個性を浮き彫りにするための研究

発表者

小玉 芳敬 鳥取大学 地域学部 教授

概要 (200字以内、明朝 10.5ポイント)

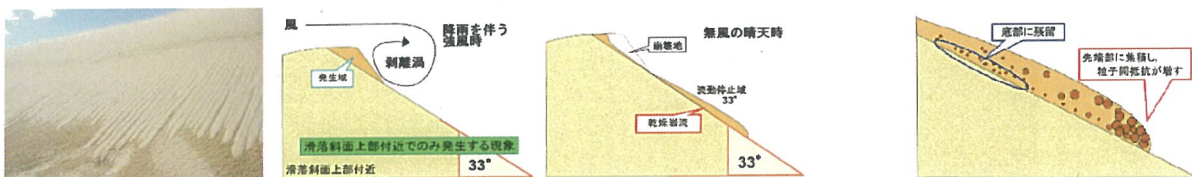
鳥取砂丘は面積や比高からみれば、極めて小規模である。しかし、「訪問者数」や取り組まれている「研究の数」は世界有数であり、「山陰海岸グローバル・ジオパーク」の見どころとなっている。飛砂に伴う様々な地象が、湿潤温暖地域の海岸砂丘であるからこそ、容易に可視化されている。砂簾・クラスト・風成横列シート・砂柱などの成因が明らかになった。またアメリカの内陸砂丘との砂鉱物組成を比較した。

【目的】 グローバルにみた鳥取砂丘の個性を一つでも多く明らかにすること。

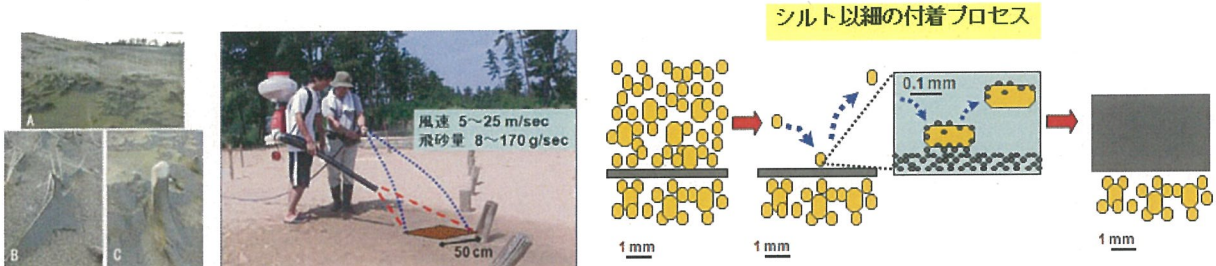
【方法】 鳥取砂丘に観られる様々な地象の成因を観察・実験などを通して明らかにする。海外の砂丘地における類似の地象と比較調査・観察。アメリカの内陸砂丘と鳥取砂丘・内灘砂丘の砂の比較研究。

【結果】

1) 砂簾の発生・停止機構: 降雨を伴う急斜面の形成、岩屑流流下で生じる粒度偏積と内部摩擦角の増加。



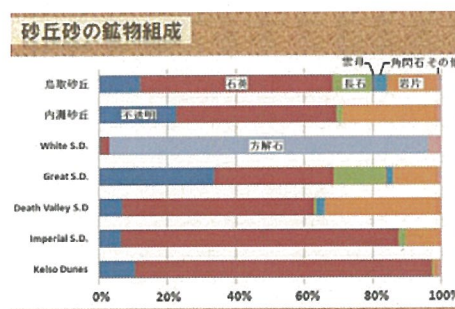
2) クラストの形成実験: plasmic layer に付着する砂埃成分



3) 降雨後の強風時に見られる風成横列シート



4) 内陸砂丘であっても必ずしも石英に富むとは限らず、



周辺地質を反映する砂丘砂の構成鉱物

【まとめ】 湿潤温暖帯の海岸砂丘であるからこそ、鳥取砂丘では「雨を伴う飛砂がつくる地象」が個性となる。

【特許登録／出願情報】 発明の名称:

発明者:

【来場者へのメッセージ】(明朝、10.5ポイント、想定される利用分野や夢等を記入して下さい)

鳥取砂丘では、近年多くの新たな知見が蓄積されています。これらの成果は、地域の自然遺産の価値を見直す「生涯学習分野」・「児童生徒学生教育分野」、あるいは「観光分野」での活用が期待されます。砂丘がいつからあるのか？ 砂丘以前の景観はどのようなものか？ といった研究テーマも継続中です。

連絡先: 鳥取大学 地域学部 地域環境学科 教授 小玉 芳敬

鳥取市湖山町南4-101 TEL. 0857-31-5088 E-mail:kodama@rstu.jp

分野

環境

プレゼンタイム

有

無